

主な記事

ペトロ地主敏夫司教司祭叙階金祝
ペトロ地主敏夫司教への感謝ミサ
聖香油ミサ
神能和己神学生祭壇奉仕者選任式

2010年4月司祭人事異動
来道司祭紹介
エミール神父帰国
ベネディクト女子修道会金祝

新教区神学生誕生
召命の集い開催案内
教勢調査報告
諸活動の紹介・他

主のご復活のお慶びを申し上げます



50年前の3月20日にも司祭叙階の恵みを受けたベルクマンズ小山昭神父(トラピスト大修道院)と共に祝う

ペトロ地主敏夫司教司祭叙階50周年を祝う

3月22日(月・祝)10時30分から、北一条教会(札幌カテドラル)にて、
教皇大使カステッロ大司教、
モリーナ参事官、菊地功司教始め、全道から司祭が駆けつけ、300名以上の修道者・信徒が参加して祝った。
カステッロ教皇大使は、
教皇ベネディクト16世の書簡と、福音宣教省長官のお祝いのメッセージを読み上げ、
地主司教の叙階金祝と23年間に亘る教区長としての責務に謝意を述べられた。そして、同じ日

祝賀会の様子



に叙階の恵みを受けた小山神父にお祝いの言葉をかけられた。地主司教は、司教座を空けてミサを司式し、神様と教区の皆さんに、今まで支えてくださったことに感謝を述べられ、父親が既に他界しており、長男として自分(母親)を助けてくれるはずの存在であったにもかかわらず、自分にとって一番大切なものを神に奉げてくれた母親に感謝すると共に、自分の意に反して自分の考えとは別の働きがあることを痛感していると話され、一日も早く札幌司教が誕生することを皆さんと共に祈りましようと思われた。
ミサ後、会場をサッポロフアクトリーホールに移して、お祝いの言葉や、地区聖歌隊の合唱、地主司教の子どもの頃や神学生時代、叙階時、留学時代などの写真が映し出され、和やかな祝宴が催され共に祝った。
また、アンドレア新雅典神父が3月21日に司祭叙階銀祝を迎え、25年間の皆さんの祈りと励ましに感謝していた。

ペトロ地主敏夫司教への感謝ミサ

2月7日 15時半から北1条教会にて、25名の司祭団と320名強の修道者・信徒が参加し行われた。



菊地司教は説教と挨拶の中で、地主司教様には1988年以來22年間、本当にご苦労さまでした。しかも定年の75歳を過ぎてから4年以上も後任が任命されず大変であったと思います。お働きに感謝します。普通であれば、引退と同時に後任が発表され、その後任の叙階または着座式が前任者への感謝が述べられる機会となるのですが、今回はそれがありません。そこでは非にお願いして、今回のミサといたしました。準備してくださった小教区の方々、ありがとうございました。と感謝を述べられました。
そして、命は与えられた恵みです。与えて下さる方をいつも意識しないと、例えば、お金がいくらあってもどうしようもないこととなります。神様の福音を信じる者が、神様がいることを伝えていかなければなりません。単にフレーズを繰り返すのではなく、行いや言葉を通して証ししなければいけません。教会は一般の活動とは違います。伝えたいものがそこにあるかどうかなのです。神から与えられた命を伝えることが福音宣教の使命(これは全ての信者に与えられています)であり、教会の使命でもあります。
教会は牧者に導かれた羊の群れとして、共同体性を最たる特徴にして存在していますから、牧者がいない期間は短いほど良いということになります。つまり私の今の教区管理者という役割が、一日も早く終了することこそが、今目指すべき目標です。ですから一日も早く新しい牧者が札幌教区に与えられるように、お祈りを願いますと結ばれました。
参加者は、これまでの地主敏夫司教様への感謝と、新潟司教との兼任である菊地功司教の教区管理者としての始めてのミサと説教を聞き、感謝すると同時にこれからの教区のために祈った。
ミサ後に、隣接する聖園幼稚園ホールで感謝と歓迎のささやかな祝宴を行った。

聖香油ミサ行われる

香油の聖別、洗礼志願者の油と病者の油が祝福され、司祭叙階時の約束の更新が行われた



今年、聖水曜日(3月31日)10時30分から、教区管理者のタルチシオ菊地功司教の司式で、教区内から30数名の司祭、100名余りの修道者、信徒が参加し行われた。菊地司教は、自動車に例えられて次のように説教された。自動車は様々な部品を組合せて動いています。自動車は、本来、動いて物を運ぶというだけの単純なものでありましたが、様々な人間の欲求が積み重なって、より便利なものが求められ、コンピュータ化され複雑な複合体となってきました。それ故、今問題となっているトラブルが発生してしまっています。

司祭も社会や信徒の様々な求めによって複雑化して、司祭の生き方も複雑になってきています。しかし、根底にあるのは、キリストとの親しさが大切であり、福音から主イエスの生き様を我々司祭が模範としているかどうか、司祭の生き方が神の愛を実現するように生きているかが大切なことなのです。また、今日は、司祭叙階の証を再確認する日でもあります。第一日目を思い起こし、司祭がその使命を再確認して、司祭職を生き抜くことが出来るように、皆さんもお祈り下さいと結ばれた。

神能和巳神学生祭壇奉仕者に選任

誰から与えられた能力か考え共同体の中の信仰を大切に



3月21日(日)15時30分から北一条教会で司祭・修道者・信徒が100名程が参加し、教区管理者の菊池功司教の司式で行われた。菊池司教は、選任式に先立ち次のように話された。キリストは、使徒を二人ずつ派遣したように、私たちに共同体の重要性を教えています。人間は、一人で勝手に生きていくのではなく、互いに助け合っているという事です。キリストの考えは、人間の常識を超えて測り知れないものです。しかし、私は自分の信仰を公言することが出来ます。自分の能力は誰から与えられた能力なのか、人々はこのことを忘れていません。プライベートの中で信仰を生きるのも大切だが、共同体として信仰を育むことが大切です。使徒言行録には、初代教会の共同の姿」ともに学びあう支えあう姿が書かれてあります。

3月21日(日)15時30分から北一条教会で司祭・修道者・信徒が100名程が参加し、教区管理者の菊池功司教の司式で行われた。菊池司教は、選任式に先立ち次のように話された。キリストは、使徒を二人ずつ派遣したように、私たちに共同体の重要性を教えています。人間は、一人で勝手に生きていくのではなく、互いに助け合っているという事です。キリストの考えは、人間の常識を超えて測り知れないものです。しかし、私は自分の信仰を公言することが出来ます。自分の能力は誰から与えられた能力なのか、人々はこのことを忘れていません。プライベートの中で信仰を生きるのも大切だが、共同体として信仰を育むことが大切です。使徒言行録には、初代教会の共同の姿」ともに学びあう支えあう姿が書かれてあります。

来道司祭紹介

函館・旭ヶ岡の家
山内 実(やまうち みのる)
神父(長崎教区)

4月14日に来道し、旭ヶ岡の家付きの司祭として着任。長崎市の中町教会の出身で、1949年8月1日生まれで60歳。霊名はフランシスコ・ザビエル。1977年3月19日に司祭叙階。長崎教区の浦上教会、三井楽

とつても重要なことです。責任の自覚や召命の自覚は、正しい選択をしていく上で大きな励みとなります。どうか皆さん神学生のために、共同体のためにも祈ってくださいと語られた。

選任式の最後にお祝いの花束。神能神学生次のようなお礼と決意を語る。

司祭への道のりは長いと思っ
ていましたが、神学校に入って
五年目となります。一年一年、
日々を重ねていく内に、そして
近づけば近づくほどに遠ざかり
たいし、本当に怖い気持ちで一
杯です。皆さんの祈りに支えら
れていることを実感し、とても
恵まれていると実感しています。
自分に対して甘いところが多々
ある私ですが、これからはより
一層自分の足で神学生としての
自覚をもって過ごしていきたい

2010年度 札幌教区司祭異動

札幌地区(4月18日付け)

- 円山教会主任 上杉 昌弘神父(月寒・新田教会主任)
 - 月寒教会主任 森田 健児神父(江別教会主任)
 - 新田教会主任 森田 健児神父(江別教会主任)
 - 江別教会主任 加藤 鐵男神父(大麻教会主任)
- 〔大麻教会主任、教区事務局長兼任〕

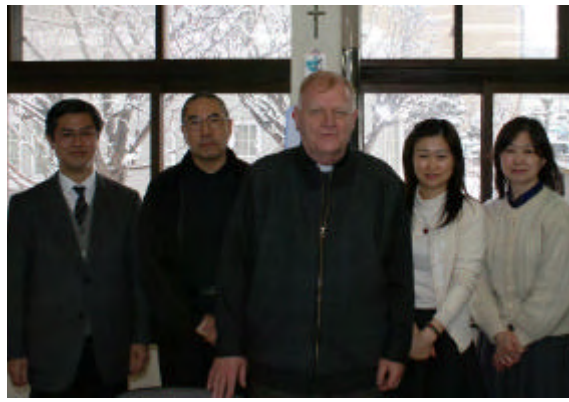
森田神父の居住は月寒教会、加藤神父の居住は司教館となります
メツレル・ハインリッヒ神父(フランシスコ修道会、フランシスコ会旭川修道院付)は1月8日付けで療養のためドイツに帰国
エミール・デュマス神父(メリノール宣教会、円山教会主任)は、宣教会人事異動のため4月18日付けで米
国に帰国



教会(五島)、出津教会で司牧するかたわら、青年会・学生会や小・中学生要理教育の責任者、地区や教区の連合婦人会の指導司祭、三井楽町や外海町の教育委員会で教育委員や教育委員長を務められた後、長崎カトリック神学院小中学校の校長を3年間務められた。
その後、長崎カトリックセンター館長、長崎教区会計や法人事務長などの要職を直近まで務められていた。今回、グロッド神父の強い要望に基づき、地主司教が労をとり今回の着任となった。函館地区の皆様はじめ教区の皆様宜しくお祈りします。

4月に米国に帰国する エミール神父に聞く

聖霊の働きがあれば、五年後にまたお会いしましょうとメッセージ



＝司教館で職員と一緒に＝

今回、聖霊の働きで、五年の約束で米国に帰国することです。メリノール会本部の高齢者(司祭)施設の管理者として赴任するという。五年後には75歳になるが、聖霊の働きがあれば、また日本に戻り協力司祭的立場で司牧活動をしたいと語る。

現在、メリノール会員は425名在籍しており、アジア(101名)、南米(51名)、アフリカ(33名)、USAなど世界各地で宣教している。その中で、リタイヤしている人数は167名で、働き盛りである27歳から59歳の人数は48名という。いずこでも司祭の高齢化が進んでいるということか。

札幌教区について尋ねてみた「これからは楽しみ」と語る

2月に行われた札幌地区宣司評の会議に参加し、勝谷神父と上杉神父のエネルギーを感じられて良かったと語る。そして、資本主義の様々な誘惑に負けないで教会に良く来る日本の信者は偉いと言つ。そして、日本の司祭にはもつとユーモアが必要とも言つ。なぜなら、教会は祈りの場であることは当然であるが、笑う場、楽しい場所でもあると言つ。真面目すぎるとつまらないし、何事も過ぎると硬くなってしまうからと。

日本の司祭団と信徒が協力すると凄いい力になると思うので、協力して日本風の教会を創らないといけない。自分の足で立たないと一人前にならない。日本のカトリックという団体は規模が小さいが、活動はよくやっているとと思うし、日本社会に与える影響は大きいのではないかと語る。

毎日新しいつまづきが出るが、それは荷物ではなく恵みであるという。イエス様のメッセージは素晴らしい。長い目で見た方が良いと。そして、これからが楽しみと語る。

【略歴】

再来日後の札幌教区での司牧は円山教会での2005年8月からおよそ5年間。再来日後は、伊達や京都の衣笠、三重の松坂などで司牧し、1983年から89年の6年間メリノール宣教会の日本管区長を務められ後、

イエスさまのまなざし

＝福音がてらす子どもたちのあゆみ＝

オリエンズ宗教研究所から発行されている「イエスさまのまなざし」福音がてらす子どもたちのあゆみ(一)教区司祭B師が「こじか」に福音の解説を載せたものを35編選んで発行された冊子)を手に取る機会があった。

「こじか」の福音解説ですから、とても分かり易いたとえ話を書いて解説している。師は幼児教育に長年携わっていることがその分かり易さの根底にあるのだろう。

そのような折に、長年、幼児教育に係わって来たシスターが金祝を迎えるお話を伺った。聖ベネディクト女子修道院のシスターである。ベネディクト会はその人が行った功績を讃えるのではなく、その人の生き方をもつて神の愛を示すことを重んじているとのことですが、少しだけそのシスターのことに触れさせて頂きたいと思えます。



米国に帰国され宣教会本部で人事等の仕事をなさった。その後2000年から5年間サハリンで宣教した。その後、再度、来日して現在に至っている。



神さまだけがご存知の「はい」
：Sr.天野和子金祝を祝つ：

ベネディクト女子修道会として今まで3人の金祝をお祝いしたそうですが、Sr.天野は、1957年に日本における修練院が正式に認められ、日本で修練を受けた最初のシスターとのことである。Sr.天野は夕張市清水沢にあった修道院に入会し、1960年3月に有期誓願を宣立し、4月から夕張天使園(保育所)で奉職を開始し、その後、幼稚園教育に長年携わりました。

入会当時は、井戸水、粉炭の時代だったそうです。自給自足のような生活で、豚・鶏を飼って、Sr.天野は豚の飼育担当で、懐かしくこの時代を想起することでした。長い50年、神さまだけがご存知の「はい」が数えきれないほどあり全てが感謝だそうです。
金祝おめでとうございます。

札幌教区に待望の教区神学生が誕生

佐藤謙一神学生(函館・宮前町教会出身)現在の心境を語る

こんにちは。札幌教区司祭になるため、日本カトリック神学院で勉強することになりました。佐藤謙一です。どういう人間か知ってもらうために、まずは私の略歴を紹介します。

1966年11月13日に函館に生まれ、1967年2月に宮前町教会で洗礼を受けました。洗礼名はパウロです。初聖体は1974年8月、堅信は1979年6月です。高校を1985年に卒業後、浪人をして1987年に大学に進学しました。1992年に栃木県那須郡の半導体製造会社に電子回路の設計者として就職しました。そこで時計の電子部品などを設計していました。2002年に会社を辞め函館の両親の下に住むことになりました。

その当時、自然の中である仕事に興味があったので、2003年2月から知内町で農業実習を行ったり、2004年5月から伊達市で酪農の会社で働いたりしましたが、一人でできる仕事ではないとあきらめました。2005年10月から茨城県つくば市のエンジンと燃料の研究所に勤めることになりました。ここは叔父(母の弟、信者)が働いていたので、誘われて働くことができました。



＝今田神父と佐藤神学生＝

しばらくして、病に侵された父母の看病のため、度々函館に帰るようになりました。そして、函館に戻って面倒を見ようと思いついた。2009年3月に研究所を辞めました。その時は、もう父も母も亡くなっていました。さて、わたしが司祭になろうと思つた動機について簡単に説明します。

会社勤めを始めた頃は、2年間に会社を辞めて函館に戻つた時に、教会の人たちが歓迎してくれたことが非常に嬉しく、教会に戻る事ができました。その後、主任司祭から神父になる道があることを教えてもらいましたが、まだ私にはすぐには無理だと思っていました。

そして、しばらく経ち、父母の相次ぐ病との闘いと死を通して、毎日祈り続けました。その祈りを通して、悲しい気持ちや不安な気持ちが解消され、キリストを心から信じる事ができ、安らぎを感じるようになり、何か自分の中で変わったような気が



がしました。
 2008年12月に、一度も遊
 びに来たことがなかった父が、
 つくば市に私を訪ねてきました。
 わずか3日の滞在でしたが、私
 の心に大きなものを置いていき
 ました。この時が、自分の意思
 で司祭になりたいと思った最初
 でした。私ができる最大の奉仕
 は司祭になり、祈りによって、
 病気で苦しんでいる人を救うこ
 となのだということが確信でき
 ました。

司祭への道を踏み出すことに
 躊躇していた私を、父母は病氣
 と死を通して、祈りの道に歩ま
 せ応援してくれたのだと思っ
 ています。

神学院への入学前の教区内で
 の予備養成として昨年10月半ば
 から、司教館で1ヶ月、当別ト
 ラピスト修道院で1ヶ月、月寒
 教会で3ヶ月半、勉強させてい
 ただきました。札幌教区はじめ
 多くの方々と知り合うことがで
 き、また多くの励ましと祈りを
 して頂き感謝しております。

2010年4月5日から、日
 本カトリック神学院での勉強が
 始まりました。長年のプランク
 で勉強について行けず苦しんで
 いるか、久しぶりの学生生活を
 神への祈りと共に楽しんでいる
 かは、7月末からの夏休みに帰っ
 てきたときの顔を見ていただけ
 れば判ると思います。今後とも
 皆さんの祈りの中で、私を励ま
 し強めて下さい。

司祭召命のつどいのお知らせ

司祭の高齢化・少数化に伴い、教会は司祭職へ進む志を持つ青
 年たちを切に求めています。自薦はもちろんのことですが、皆
 様の教会の中でふさわしい青年があらましたら、ぜひ推薦して

くだされば幸いです。
 召命のつどいに参加したから
 といって、必ず司祭にならなけ
 ればならないものではございま
 せん。左記の内容をごらん頂き、
 気軽に参加していただければ幸
 いです。
 申込用紙や申込方法などに
 つきましては、主任司祭にご相談
 ください。また、参加費用等に
 関しましては、小教区で負担し
 ていただけるとお思いますので、

あわせて主任司祭にご相談下さ
 い。
 主イエス・キリストの恵みと
 祝福が皆さまの上にありますよ
 うにお祈り申し上げます。

しょう めい 召命のつどい

教会は、イエスさまの弟子たちにつづく司祭の召し出しをいつも求
 めています。この混迷した時代こそ、キリストに従って歩みだす新し
 い人生をスタートしてみませんか！



日時：4月28日(水)・29日(木)

場所：花川マリア院

(石狩市花川南3条5丁目25)

交通：地下鉄南北線「麻生」駅下車

中央バス乗り場 で「花畔団地行き」に乗り、
「南3条5丁目」下車)

プログラム

4月28日(水)

15:30 花川マリア院集合

(花川セミナーハウスより奥。テニスコートよりもさらに奥へ。)

講話、分かち合いなど

4月29日(木)

朝の祈り、講話、派遣ミサなど、昼食

13:00 解散

参加対象：司祭の召命について考えている青年男子(18歳~40歳)

参加費：1人2,000円(当日集めます。)

申し込み方法：申し込み用紙に記入して、下記のところへ郵送またはFAXで。

申し込み先：〒004-0004 札幌市厚別区厚別東4条4丁目5-2

カトリック小野幌教会 新海雅典神父宛

TEL 011-898-2626 FAX 011-898-3190

当日連絡：090-4876-9117(新海神父)

主催：カトリック札幌司教区神学生養成担当司祭団

2. 人員構成

宣教師合計			33			修道女合計			301		
所属団体	邦人	外人	修道会名			邦人	外人				
司教	1	0	厳律シトー会			54	1				
教区司祭	22	0	イエスの小さい姉妹の友愛会			3	0				
パリ外国宣教会	0	4	カルメル会(伊達)			16	0				
メリノール宣教会	0	6	カルメル会(幕別)			12	0				
教区助祭	0	0	マリアの宣教師フランシスコ修道会			33	0				
小計	23	10	修道者合計			57					
厳律シトー会 司祭	9	0	殉教者ゲオルギオのフランシスコ修道会			125	5				
修道士	19	0	聖心会			6	1				
フランシスコ会 司祭	10	12	シャルトル聖パウロ会			10	0				
修道士	2	0	聖ベネディクト女子修道会			16	0				
マリア会 司祭	2	0	聖心の布教姉妹会			3	0				
修道士	0	0	聖パウロ女子修道会			0	0				
ラ・サール会 修道士	0	3	聖マリア在俗会(旧聖母カテキスタ会)			7	0				
小計	42	15	在俗会 聖ヴィアンネ会			9	0				
修道会修練・志願者・神学生	5	0	小計			294	7				
教区神学生	1	0									
小計	6	0									

3. 施設

施設名	設置数	人数	施設名	設置数	人数
小教区教会	59	17,993	大学	2	3,007
巡回教会	3		高校(男子)	1	602
教会学校 小学生以下	40	577	高校(女子)	5	1,784
中学生	29	182	高校(共学)	2	1,296
高校生以上	21	144	中学(男子)	1	358
障害者更生施設	3	126	中学(女子)	3	698
障害者支援施設(通園)	4	22,716	中学(共学)	1	236
その他更生施設	2	13,304	幼稚園	57	5,311
障害児通園施設	1	8,088	保育園	4	81,068
			乳児院	1	20
養護老人施設	1	50	児童養護施設	1	80
特別養護老人ホーム	2	113	研修所・黙想の家	1	125
特別有料老人ホーム	1	19	センター・その他	3	7,326
その他高齢者福祉	2	31			

4. 札幌教区教会教勢調査 小教区内訳(2009年1月1日~12月31日)

教会名	信徒数			異動					
	男	女	合計	転入	転出	幼児洗礼	成人洗礼	死者	求道者
1 岩見沢	118	170	288	1	2	0	2	6	3
2 恵庭	66	59	125	3	2	0	1	0	1
3 江別	63	71	134	3	1	1	3	1	1
4 大麻	82	131	213	0	11	0	1	2	3
5 北1条	282	377	659	7	14	3	21	13	5
6 北11条	643	1,423	2,066	34	27	2	16	18	25
7 北26条	288	461	749	5	13	2	7	8	9
8 北広島	176	284	460	13	0	1	3	2	2
9 倶知安	30	39	69	1	0	2	2	1	0
10 小野幌	211	355	566	9	16	2	4	7	1
11 新田	70	118	188	3	8	0	2	7	0
12 住ノ江	45	139	184	1	3	0	1	4	2
13 千歳	89	138	227	3	0	0	0	2	2
14 月寒	291	499	790	38	7	2	15	8	7
15 手稲	161	256	417	7	3	0	1	4	4
16 富岡	70	153	223	1	1	0	1	1	4
17 花川	66	112	178	0	0	0	2	3	2
18 真駒内	241	368	609	3	4	0	4	10	0
19 円山	343	562	905	11	4	1	13	9	6
20 山鼻	304	477	781	11	5	1	5	5	2
札幌地区計	3,639	6,192	9,831	154	121	17	104	111	79
21 江差	2	14	16	1	0	0	0	1	0
22 当別	55	63	118	6	0	0	11	4	2
23 宮前町	274	437	711	4	3	3	3	13	1
24 元町	167	255	422	1	12	0	3	6	1
25 八雲	32	55	87	0	0	0	0	0	0
26 湯ノ川	261	462	723	12	7	0	1	3	0
函館地区計	791	1,286	2,077	24	22	3	18	27	4
27 網走	27	52	79	0	2	0	1	3	2
28 遠軽	14	22	36	0	0	0	0	0	0
29 北見	70	151	221	5	5	0	2	1	0
30 紋別	4	17	21	0	0	0	0	0	0
北見地区計	115	242	357	5	7	0	3	4	2



2009年 カトリック札幌司教区教勢報告書

2009年1月1日~12月31日

1. 概況

教区総面積	83,456	()内は2008年末の数字
教区総人口	5,543,556人	[2009年3月31日現在の人口]
在籍信徒数	17,603人	(17,545人)
司祭・修道者・神学生数	390人	(404人)
信者総数	17,993人	(17,949人)
求道者数	150人	(137人)
洗礼者数	202人	(199人)
初聖体	130人	(103人)
堅信	131人	(167人)
居所不明	641人	(751人)
死者	200人	(190人)
婚姻件数	68件	(67件)
信徒同士	6件	(6件)
信徒と他キリスト教	4件	(3件)
信徒と非キリスト教	36件	(43件)
他宗教同士	22件	(15件)

教会現勢報告にご協力いただきましてありがとうございました。教会現勢報告の集計がまとまりましたのでご報告いたします。

宗教法人 カトリック札幌司教区

教会名	信徒数			異動					
	男	女	合計	転入	転出	幼児洗礼	成人洗礼	死者	求道者
31 旭川五条	149	232	381	9	5	2	2	6	7
32 旭川六条	153	236	389	4	3	0	3	6	0
33 枝幸	10	9	19	0	0	0	0	0	1
34 大町	157	234	391	2	12	0	5	5	1
35 神居	65	138	203	2	0	0	1	2	4
36 士別	25	30	55	0	4	0	2	1	0
37 砂川	22	46	68	0	1	0	0	0	3
38 滝川	46	72	118	0	1	0	1	0	1
39 名寄	38	69	107	3	4	0	2	3	1
40 羽幌	23	45	68	0	0	0	4	1	0
41 美瑛	37	64	101	4	18	1	3	2	3
42 富良野	23	56	79	1	1	0	3	2	4
43 留萌	66	98	164	2	2	0	0	2	2
44 稚内	44	57	101	5	10	0	1	1	0
旭川地区計	858	1,386	2,244	32	61	3	27	31	27
45 池田	15	35	50	1	0	1	0	0	1
46 帯広	164	347	511	5	4	3	5	1	15
47 釧路	215	288	503	0	4	0	5	5	5
48 新川	50	93	143	0	2	0	0	1	0
49 中標津	65	106	171	2	2	1	0	0	1
50 厚岸	8	10	18	1	0	0	0	0	4
51 根室	10	30	40	0	0	0	0	1	0
52 柏林台	83	110	193	0	3	0	0	1	1
53 本別	10	14	24	0	0	0	0	0	0
釧路地区計	620	1,033	1,653	9	15	5	10	9	27
54 苫小牧	253	328	581	2	5	1	4	8	5
55 静内	21	29	50	0	1	0	0	0	0
56 伊達	75	137	212	2	0	0	1	1	2
57 登別	29	44	73	1	2	0	0	2	0
58 東室蘭	103	176	279	3	75	1	3	6	1
59 室蘭	89	157	246	1	0	1	1	1	3
苫小牧地区計	570	871	1,441	9	83	3	9	18	11
合計	6,593	11,010	17,603	233	309	31	171	200	150

札幌でダブルの子ども達について 2009年度東京教会管区セミナー開催



「生活・ケース」、「英語」の4グループに分かれ各グループ10名前後で16時30分頃まで討議を重ねた。一室内で4グループがそれぞれの内容を熱く語り始めたので、互いに大きな声になっていったことは止むを得ないことか。

日本カトリック難民移住移動者委員会(委員長 谷大司教)は、2月26日と27日の2日間、札幌市を会場に東京管区他8教区から計60名が参加して行われた。

初日の26日は、札幌エルプラザに於いて、10時から主催者から菊地司教とマイレット神父の挨拶があり、日本カトリック難民移住移動者委員会から細淵則子シスターが挨拶。

その後、オリエンテーションが行われ、主催者から北海道の実状を話し、続いて札幌教区の信仰教育の現状と分かち合い、小教区に於ける体験等について7名の人達が発表した。

午後からは、ビッグ・プラザ、ビッグ・シスター、つえるかむはうすの事例の発表がなされた。皆それぞれの苦労や苦しみ、そして実情等を話され、問題点と今後の課題等を話して質疑応答を行い休憩に入った。14時30分から「信仰」、「学習」、



=グループディスカッションの様子=

一日目の会議が終了し、夕方から2名の司教を始め司祭、シスター、信徒等が32名集い懇親会を行った。ご当地の様々な情報や、状況を話し合えた事は最高によかったとの感想が聞かれた。なかなか他の地域や教会に行くことが困難であり、様々な教区の方々と本音で話し合える場がこれからは必要なのではないか。

翌日27日は北一条教会にて菊池司教の主司式で、谷司教はじめマイレット神父、小川神父、マルティン・オマン神父、久保寺神父、加藤神父が共同司式し、

札幌地区宣司評 家庭部会講演会開催

(札幌カリタス他共催)



=講演する森一弘司教様=

私たちは柔らかい、
温かい、棘の無いものを望む

1月24日(日)14時から北11条教会で開催。森一弘司教による講演で、テーマは「自殺者から見た日本社会の歪み」

私たちの「生まれてよかった」の前提に、「日本で生まれて」がつくだろう。確かに、日本は表面上は良い国のように見える。しかし、引きこもりは70万、100万人(15歳、34歳)あり、自殺者は1年で3万人超で、10万人当たり約25人で、先進国で是世界一である。

例えば、北アイルランドの内紛では40年間で5千人が亡くなった。イラクでは7年間で9万人が亡くなった。同じ7年間で、日本では自殺で亡くなった人は21万人。内容は別として、数字的には日本の自殺者はすごいこと

とで、東京マラソンの参加者と同じ数だけ1年間でなくなっている。自殺未遂者や行方不明者を加えたら大変な数字になる。日本は、表面上は幸せ(小さな幸せ)だが、私たちの内側は大変な数字になっている。特に、50歳、60歳代の働き盛りの人の自殺者が多い。家族の機能の欠如。リストラ等で壁にぶつかった時に余裕が無い(人生哲学の欠如)などが理由に挙げられているが、理由のトップは、健康問題(他と比べて自分は何が健康か)である。健康が幸せの第一条件と言えるのかもしれない。

私たちには、幸せになりたいという考えがある。イエス・キリストが人間に向かって最初に言った言葉は幸いである。イエスは、人間を幸せにしてあげたくて来た。しかし、今、幸せに何が必要ですかと聞くと、お金ですと応える。幸せはお金と考えるのが日本の根底にある。そして、中学生に宝くじで1億円当たったらどうするかと尋ねると、「預金」、「不動産を買う」、「旅行に行く」などで夢が感じられない答えばかりである。「自分を支える考え(哲学)がない」と言っている。現代には、封建時代と違い自由で幸せになる権利(基本的権利)がある。自由に幸せになるという流れの中で、一人ひとりがお金を儲けて幸せになるという資本主義的思考が出てきたのだらう。そして、儲けることが

出来ない(ついていけない)人は自分の責任であり、弱い立場の人々が追いやられるようになり格差が生まれた。ダブルの子ども達について

ダブルの子ども達について

ダブルの子ども達について

ダブルの子ども達について

ダブルの子ども達について

ダブルの子ども達について

ダブルの子ども達について

ダブルの子ども達について

ダブルの子ども達について

ダブルの子ども達について

正義と平和 さいたま大会

2009年の大会は、2003年以来となるさいたま教区開催大宮教会を主会場に10月10日から12日まで「一人ひとりがかけがえない人間です」をテーマに実施。

今回の特徴は、さいたま教区内の11教会と群馬館林、都内四ツ谷、横須賀で現地学習分科会が組まれたこと。北海道からは、担当司祭と札幌4名、函館1名の6名が参加し、全休の後、それぞれ分かれて分科会に参加しました。参加した分科会の様子を紹介します。

『ダブルの子(両親がそれぞれ異なった国籍)の問題』分科会
日本での生活の中で、何らかのトラブルや、適切な対応がとられていない状況にあるダブルの子ども達に目を注ごうというもの。わが国ではダブルの子が、まだ快適で安心して生活できて



いないことや、ダブルの子が悩んでいることさえ認識されていない実情を知ったことが、この分科会に参加した大きな成果であり、多文化共生の教会への道のりは遠いということを感じたそうである。

『憲法20条(信仰と思想の自由)と靖国神社』分科会

DVDによる学習や遊就館という施設の見学。合祀者の多くは、過去の軍国主義によって戦争参加を強いられた「被害者」であること。そして、国は誤りを正当化するため宗教施設に戦死者を神とし祀り、神とした戦死者を顕彰することで戦争を崇高な出来事としよとしたことが問題です。平和実現のために、戦死者の無念の思いを追悼し、不戦を約束する新たな適切な場が必要であるということ。右翼活動者による妨害もあつたが、適切な処理され大きな問題とはならなかった。

『普通のおじさん・おばさんのための正義と平和』分科会

多くの人に正義と平和の活動に目を向けてもらおうと企画し、谷司教、森司教の講話があり、その後、グループに分れ話し合いが行われた。

『足尾鉍毒事件と田中正造の足跡・活躍を検証する』分科会

日本の公害防止の先駆的活動として注目される活動を検証する分科会は大きな実りとなつた。足尾銅山は江戸時代から銅を産出し、その廃棄される鉍毒で渡良瀬川は汚染され、下流の利根

川流域の栃木・群馬・埼玉・茨城・千葉の各県まで被害が及んだ。この被害を防止しようと先進的に活動した田中正造の行動には見るべきものが多くあり、公害防止の先覚者として永く記憶されるべきものである。数少ない記念館等を見学しながら意義ある交流となつた。

そして、2010年は9月18日、20日の3日間札幌で大会が行われます。多くの方々の参加・協力により有意義な大会となることを願っています。

北海道ダルク フォーラムを開催

3月13日(土)10時半から札幌コンベンションセンターで開催100人以上が参加し分かち合いを行った。

森代表は、今、20代の二人の卒業生(回復プログラムで立ち直つた人)が、ボランティアスタッフとして手伝ってもらおうようになって嬉しいと共にとても頼もしく感じているとのこと。

一人は、設立してすぐの8月に北海道ダルクに来て、1年3ヶ月共に生活してダルクを卒業し、アルバイトをしながら4年間一人でアパートに住み生活。アルバイト先では新人を指導する立場になっていた。昨年の春頃に、仲間を手助けしたいと事務局を訪れて7月くらいからボランティアスタッフとして手伝い始めた。もう一人は、函館の

新刊紹介

フラガ神父の料理帳

「スペイン家庭の味」
ドン・ボスコ社刊 2,100円

来日58年のフラガ神父が、故郷スペイン・ガリシア地方の家庭料理を紹介。愉快な語り口にして繰り出される料理40点は簡単かつ豪快。友人である彫刻家の池田宗弘氏による版画・挿絵も味わい深い一冊。復活祭やクリスマスなどの特別料理も収録。



聖フィリポ・ネリ

「喜びの預言者」
ドン・ボスコ社刊 840円

「喜び」には人の心を獲得し、人を徳の道へ導く力がある。教会内のさまざまな刷新への方向性が示された対抗宗教改革運動の時代に、オラトリオの集いにおいて若者に喜びと希望を与え、神の愛を伝えた聖フィリポ・ネリ。その生涯、ネリの言葉や彼をめぐる人々を紹介している。喜びのうちに神の愛を表現する素晴らしさを、自室の小さな集いから世界中に広げられたフィリポ・ネリの精神は、現代に生きる私たちにも力強いメッセージを発信し続けている。



公演と上映のお知らせ

演劇「ねこはしる」

黒猫ランと魚をとりまく動物たちや植物たち、風や水や太陽など、自然の中のたくさんの「いのち」が登場し、生き生き

と彼らの物語を語ります。作者の工藤直子さんの詩は、音楽のように美しく、そして力強い「いのち」の鼓動を奏でていきます。

素朴な土の音色のオカリナと、絹糸とコップの不思議な楽器ストリングラフィーが案内役を補佐しています。前売り券は市内プレイガイドで発売中。

日時：2010年6月26日(土)

開場 17時00分

開演 17時20分

会場：札幌市教育文化会館

(北一条西13丁目)

映画「風のかたち」

「小児ガンと仲間たちの10年」

聖路加国際病院の小児科医・細谷亮太さんが、ドキュメンタリー映画の伊勢真一監督に依頼し、撮影された10年間の記録映画。病気を体験した子どもたちが、弱さを強さに変えていく姿、医師やボランティアたちが、病気の子どもとかわかることで、力を得ていく姿を記録している。それは、人間の生きる力、希望のようなものである。前売り券は市内プレイガイドで発売中。

日時：2010年6月26日(土)

10時30分 13時30分

16時15分 18時45分

会場：札幌市教育文化会館

(北一条西13丁目)

教会紹介

岩見沢教会(札幌地区)

教会創立100周年を迎える

100周年の記念ミサは、教区管理者の菊地司教司式で10月11日(月・体育の日)に行われる予定で準備が進められています。皆さんと共に祝いし、次の100年を目指して共に福音宣教に取り組んでいくこととなります。

約100年前、ベルリオーズ司教は岩見沢地区に一つの教会を建てたいと考えていた。しかし、設立資金を手当することが難しく悩んでいた。その考えを知ったイツポリート・ピュルトー神父は、1909年、師48歳の時に来岩し、市内に住宅を借りて布教活動に入り、翌1910(明治43)年に、現在地に1000坪の土地を購入して岩見沢教会は建設されることになったのです。



初代主任司祭
イツポリート・ピュルトー師



1910・明治43年初めて建てられた教会



=現在の聖堂の十字架=

建ての岩見沢教会を建てられたのです。当時の岩見沢は鉄道の要衝で、人口約2万人で、信徒(主として鉄道員)も既に若干(主日のミサに集まるのは、信徒8名位と志願者3名位)住んでおり、付近には炭鉱もあり、将来発展する可能性のある町であったと伝えられています。

その後、改築と新築を重ねて現在の聖堂となっている。所属信徒数は、1925年には125名、1987年には288名となり、現在と同規模の教会となりました。

主任司祭は、イツポリート・ピュルトー神父が初代主任司祭を務められた後、15人の司祭方が務められ、現在の主任司祭は、ラウレンシオ 宮部 登 神父です。

また、教会には、岩見沢天使幼稚園が隣接しており、1927年に5代目主任司祭のエマヌエル・ゼントグラフ神父の時に作られた札幌教区初の託児所「天使園」が、1942年に正式に幼稚園として認可されたものです。

訃報

神様のみもとの安息を
お祈り下さい

メリノール宣教会
ジェームス・オニール神父



メリノールの司祭として54年間務めたことになるが、それは日本(特に、北海道)での宣教の期間に等しい。夕張や伊達、静内、浦河など苫小牧地区での宣教活動に長く尽力された。また、日本の教会史、特に北海道の教会史に造詣が深く、集められた多くの資料を教区に寄贈された。2年前(2008年)に病氣療養のため帰国し、今年の1月29日に神様のもとに召された。享年82歳。

【略歴】

- 1927年6月10日 米国ネブラスカ州オマハ生まれ
- 1948年9月 メリノール宣教会入会
- 1955年6月11日 司祭叙階
- 1955年6月 来日
- 2008年3月 療養のため米国へ帰国
- 2010年1月29日 帰天

殉教者ゲオルギオの フランシスコ修道会

Sr. M. パツシャリア 上杉ツル



1945年終戦の年に生地である土地に新田マリア院が開設され、翌年その聖堂で受洗の恵みを受けられた。家政の仕事に才能を生かし、北見、函館、旭川、苫小牧などいろいろな支部で院内の仕事を誠実に果たされた。新田マリア院の最初の聖堂が自分の家の倉の中であったことを生涯誇りとしていた。享年88歳。

【略歴】

- 1922年1月14日 樺戸郡月形町生まれ
- 1946年4月21日 受洗
- 1947年8月23日 入会
- 1950年8月12日 初誓願
- 1955年11月23日 終生誓願
- 2010年3月25日 帰天

Sr. M. ユリアナ 中山 多賀



初誓願後、12年間藤学園で数学の教師として教壇に立ち、その後は、管区秘書、シスターの養成、副管区長を務められ、1969年から1981年までは管区長としての重い重責を担われた。また、開設された花川マリア院の院長に任命され、黙想の家または高齢な姉妹たちを擁する大きな支部の基礎を固めました。帰天する日まで、元気で、慈愛に満ちた笑顔と存在で姉妹たちを支え通しました。享年100歳

【略歴】

- 1910年2月1日 小樽市生まれ
- 1929年8月14日 受洗
- 1939年8月17日 入会
- 1942年8月12日 初誓願
- 1947年8月12日 終生請願
- 2010年3月29日 帰天

編集後記

主のご復活おめでとございます。心からお喜び申し上げます。今、社会においても、教会においても様々な問題が有りますが、これも神様の思召しなのでしょう。今の時代、神様が私たちに何を求めているのか考える良い機会なのでしょう。そして、一歩ずつ着実に歩みを進めていく必要があるでしょう。

新司教を迎えるために、札幌教区も少しずつ動き始めました。皆様と共に祈りをし、一日も早い時点での新司教の誕生をお祈り致しましょう。